

# 15世紀末から16世紀までのフランスにおける治安行政 ——Police の用語法から——

## Usage of the Word 'Police' in the Ordinances in France ca. 1480-1580

永井 敦子

文化政策学部 国際文化学科

Atsuko NAGAI

Department of International Culture, Faculty of Cultural Policy and Management

本稿では15世紀末から1570年代までの王令における、ポリスの語の用いられ方と、意味内容の変化を検討する。15世紀末の王令では同業組合や都市の特権を認める際にポリスの語が用いられ、その意味内容は漠然とした秩序維持の場合が多い。しかしフォンタノンが収集した16世紀半ば以降の王令では、ポリスの語が、街路整備、価格規制、犯罪抑止などの具体的な内容をもった秩序維持の意味で用いられるようになる。また「ポリスの事柄」「ポリスについての王令」の範囲が限定され、都市における規則違反に関する情報の掌握と処罰といった、「ポリス役人」の職務内容が明確化する。16世紀におけるポリスは実効力を欠くが、ポリスの内容がこのように具体化したことで、王国の秩序形成手段としてのポリス（治安行政）につながるのではないだろうか。

The word 'police' in the late Middle Ages and Early Modern era had a wide range of meanings from regulation of a craft guild to good administration of the kingdom, and from job of mayors and royal officers to that of the king. Its usage in royal edicts and ordinances should have been shifted from the end of the fifteenth century to the mid sixteenth century. Charles VIII and Louis XII mentioned 'police' in their ordinances most often to regulate craft guilds and second to confirm privilege of towns. They showed their aim to keep good order and police, but rarely noted what was 'good police' and how to keep order. In the ordinances from around 1540 to 1570s collected by Antoine Fontanon, the kings mentioned the same word with more detailed depiction of what should be controlled and how crimes and disobediences be detected and judged. This practical concept of the police may become essential to public order in the sixteenth century.

### はじめに

フランスにおいて「ポリス police」の語に規範形成機能から規範を適用する機関までの意味を持たせる用語法は、中世史家のリゴーディエールによれば14世紀には確立していたと言われる<sup>1</sup>。しかしリゴーディエールが認めているように、ポリスの語は15世紀までは、必ずしも頻出語でないうえ、「司法とポリス」「ポリスと統治」「秩序とポリス」のように他の語と併置された言い回しが多くみられ、「ポリス」の意味内容は漠然としている<sup>2</sup>。これに対して1580年に法令集を編纂・出版したフォンタノン Antoine FONTANON は、その「第1巻第5部」で「フランスのポリス、および職人と手工業の規則の全般と個別例を扱う」として、王令・命令を選び出し、それらを「王国全般のポリス」・「パリのポリス」・「穀物の売買と輸送」といった項目ごとにまとめた。その内容は、同業組合への規制や価格統制から、街路清掃と美化、市壁の修築、救貧、ペスト対策、夜警、犯罪防止、徒弟や奉公人の監督、奢侈の規制、度量衡、都市役人による市内の情報収集体制の構築にまで至る<sup>3</sup>。フォンタノンの収集は一例にすぎないが、「ポリス」が王国行政の限られた分野を指す語となっていた可能性を示唆する。しかもフォンタノン法令集に収録された16世紀半ば以降の王令では、取り締まりを担う人物の範囲・権限が詳細かつ明確になってくる。

本稿ではこのように刊行史料としての王令集<sup>4</sup>とフォンタノン法令集によりながら、15世紀末からフォンタノンの時代までにおける、ポリスの語の意味内容の変化を検討し、それを当時の君主が意図した秩序維持体制のあり方につなげていきたい<sup>5</sup>。

### 同業組合同規約と経済秩序

#### ——15世紀末、王令集から——

王令集に本文が収録されているシャルル8世（在位1483～1498）とルイ12世（在位1498～1515）の王令の中で、文中にポリスの語が見られるものは89件に上る。これには名詞の「ポリス police; pollice; policia」だけでなく、動詞「ポリスする policer」と分詞形「ポリスされた policé」と形容詞「ポリスの politic」を含む。そのうち王令の対象となる都市と商工業の職種が特定でき、内容的に同業組合同規約に当たるものは50件を数える。ただしポリスが職業的秩序をさすとは限らない。例えば1484年9月に出されたパリの鍋工の規約の、「彼らの職業と商品が今後よりよくポリスされるように」という箇所でのポリスは職業的秩序と解釈できるが<sup>6</sup>、1485年8月に出されたパリの小問物商と聖ルイ信心会の規約で、「当該都市のすべてのポリスの統治を担う余のプレヴォ」という箇所に使われているポリスの語は、より広範囲の秩序を意味すると解釈できる<sup>7</sup>。

上の王令89件のうち20件は特定の都市を対象とした都市特権に関わるもので、市長・助役といった都市当局の構成員と選出方法や権限を定めたもの、公設市場や市庁舎に関するものを含む。これらの王令では、ポリスの内容が都市の商工業の秩序と解釈できるものと、都市の全般的な秩序と解釈できるもの、どちらも特定しにくいものが出てくる。例えば1497年にパリの公設市場の秩序を定めた王令では、「パリのポリス」に続けて「食料に関しても商業に関して」と補っており、商工業の秩序と解釈できる<sup>8</sup>。1484年4月の、トゥールーズに近いアザの特権

を規定した王令では、「司法の事柄およびその他の大市・市場とポリスに関するすべての特権・自由・慣習・規約および命令」を承認すると述べられている<sup>9</sup>。同様の併置は1496年5月の、同じラングドック地方のラヴォールの住民に対する特権規定においても見られ<sup>10</sup>、これらのポリスの語は商業秩序と解釈できる。

ポリスの語で都市の全般的な秩序をさす例として、1483年1月付でエダンの都市特権を確認する王令では、1447年7月付のブルゴーニュ公フィリップの命令を引用した後、当該都市に「エダン市の規定と当局の事柄、および都市の善と利益とポリスの維持のための規約・王令・命令」が与えられるとしている<sup>11</sup>。1484年12月付のアンジェの特権に関する王令では、「当該都市を良き秩序とポリスのうちによりよく保つため」、市長・助役その他の都市役人からなる都市当局に「都市当局、その体制、ポリスおよび統治の維持」に当たらせるとしている<sup>12</sup>。また1492年5月にサントの都市特権を確認する王令では、市長と助役などが「当該都市の司法とポリスを担い、市内および郊外のすべての住民に通じている」べきだと規定している<sup>13</sup>。

具体的な秩序維持の内容が示されている例として、1498年1月付のブルージュの都市特権を確認する王令で引用されている、1491年1月にシャルル8世が同市に与えた王令がある。引用文の中で、王が市長と助役に「当該都市の状況・秩序とポリスに関して、都市と郊外における権限」を認める際に、その職務を「都市の橋・門・街路の修理、管理、清掃、新たに都市の公共の道路を侵しかねない建物の規制、防火のための井戸や貯水槽といった水の用意、その他都市で起こり得る問題として、粉屋の計量と製粉に関する過失や不正、パン屋が売るパンの重さ、肉屋と魚屋が売る肉や魚、それらの転売を含めて食料を扱う小売商や食料品商、その他の必需品として木材・炭・薪・荷車・瓦・砂・石灰・木ずり・舗石その他の都市の建設工事とポリスに関すること、さらにまた法と慣習にしたがって夜警や市門の物見などをすべき人々にさせること」と列挙した<sup>14</sup>。王令集を見る限り、15世紀末に都市当局による秩序維持の内容をこのように示した例は稀である。

残る19件の王令は都市より広い範囲を対象としており、その中にはまず特定の地域について規定したものがある。1483年10月9日の王令ではオルレアン公にイル＝ド＝フランスとシャンパーニュなどの地方総督を委ねるにあたり、その権限を「戦争、司法、食料供給、ポリス、また商業その他の事柄」としており<sup>15</sup>、ここでのポリスの語は地域の商工業の秩序と解釈できる。これに対して1483年12月5日の王令は、フランドル諸都市の法官の権限を認める際に、「商業における善と流通、当該諸都市の維持とポリスのため」とうたっており<sup>16</sup>、このポリスは地域の全般的な秩序をさすと解釈できる。1490年12月28日付の王令では、ラングドック地方の「司法とポリスに関して」地方三部会から出された要望に基づき、トゥールーズ高等法院の権限を確認するとしており、王の意向として当該地方が「良き司法とポリス、安寧のもとに置かれ、統治される」べきだとの言い方がされている<sup>17</sup>。1493年12月9日付の、モンパンシエ伯を地方総督に任命する王令では、管轄地方における国王総代官でもある総督の職務として、「当該地

域および都市の住民を良き秩序とポリスのもとに置く」と規定している<sup>18</sup>。さらに対象地域を王国全体に広げたものとして、1483年9月12日の王令は王の務めを「王国および領地を王の権限と権威と威光において良き秩序とポリスに保ち、教会の自由を保障し、人民をあらゆる攻撃と暴力から保護する」と述べている<sup>19</sup>。

地域的には王国全体を対象としつつ集団を限定した王令もある。1486年10月6日の王令は「傭兵の秩序・ポリス・統治・生活様式」について、彼らに窃盗などの悪事をやめさせ、「王国内を往来するにも良き秩序とポリスをもって生活させる」としている<sup>20</sup>。1489年10月9日付の王令では王領地の「良き秩序とポリス」に言及し、王国財務官の権限を確認した<sup>21</sup>。1498年3月のプロワの王令は、国王が「王国と臣民を、良き確実な司法とポリスをもって統治するために」、プロワに主だった聖職者と主要な高等法院の代表、大法官らを集めて起草したとしており、内容的には高等法院官僚・国王代官（バイイ・セネシャル）から書記・警吏に至るまで、国王役人の職務に関する規則がまとめられている<sup>22</sup>。さらに1498年6月4日には「貨幣の事柄について良き秩序とポリスをもたらす」として、造幣局の職務に関する王令が出され<sup>23</sup>、同年6月24日にも「王国のすべての役人を良き秩序とポリスに保つ」とうたって、パリ会計法院官僚の職務に関する王令が出された<sup>24</sup>。

王国全体の商工業の秩序に関しては1498年3月11日付とされる王令がある<sup>25</sup>。この王令では、旅行者に必要な宿泊や食料・衣類等の価格が不当に高いとして、その責を「過去および現在にわたって余の諸都市および諸地方の司法とポリスについての任務と執行に当たる、余の役人そのほかの人々の怠慢」、つまり彼らが「それぞれの場所で、上述の物事の合理的な公定価格とポリスを与え、設定することに、過去および現在にわたって注意も配慮も熱意も払っていない」ことに負わせた<sup>26</sup>。そして王は、「余の臣民への全体への配慮・支配および君主としての統治だけでなく、余の司法と良きポリスを信頼して余の王国・諸地方・諸領を訪れ、往来するあらゆる外国人、商人、そのほかの人々への保護を引き受ける余が、上述の食料・商品の質と公定価格について、悪弊や無秩序を避け、良き秩序と全体のポリスを余の諸領・諸州・諸地方に設定したいと望んで<sup>27</sup>」、宿屋で提供される食事、着替えの衣類、馬用の秣、その他のサービスの公定価格を定め、それを宿屋に守らせるよう国王役人に命じた。この王令では、ポリスの語で諸地方の役人が担う商工業の秩序をさすと解釈できる箇所と、王が担う王国の全般的な秩序をさすと解釈できる箇所がある。

この当時ポリスの担い手とされたのは、王と国王役人、および自治都市の市長と助役までであるようだ。パリではシャトレ裁判所の検査官がパリの「公共の事柄の安寧とポリスを保つ」役割を自認していたことが、1505年5月の王令に引用されている請願書からわかる<sup>28</sup>。地区長についての記述として、1484年1月の王令で国王はパリの「良きポリス」のために地区長に免税特権を認める。しかし地区長の職務を「プレヴォおよび助役の下で、都市を監督し、あらゆる知らせを聞き、地区の貴族・ブルジョワおよび住民の集会を開き、必要とあれば昼も夜もそれらの事柄に秩序をもたらす、また地区の常住の人々と余所者の数を知っ

ている」とする説明の中では、ポリスの語が使われていない<sup>29</sup>。またパリの弩隊の特権を確認する1483年10月付の王令の中でも、弩隊の役割ではなく王の意志として、「パリ市が防衛において良きポリスと秩序に置かれる」べきだと表明されている<sup>30</sup>。

以上、15世紀末から16世紀初頭にかけての王令におけるポリスの語の用法を見てきた。その指示範囲は漠然とした秩序維持であり、具体的内容や担い手が限定される場合とされない場合がある。この中から、1498年1月のブルジュの都市特権を確認する王令に見られるような都市の秩序維持、同年3月付とされる王令に見られる公定価格を含む商工業の秩序維持、また同業組合的な職業ごとの秩序維持は、16世紀にも継承される。

## 都市の治安

### ——16世紀半ば以降、フォンタノン法令集——

フォンタノンが「フランスのポリス」に関する法令として収集した16世紀半ば以降の例を見ると、都市行政に関するポリスの内容が具体的かつ限定的になってくる。1539年1月28日付の王令で、「良き都市パリに対して余が出したポリスに関する王令の維持と遵守」を望む王は、具体的には街路の清掃と舗装、ゴミ処理、荷車や馬車での通行上の注意、街路に店の設備や商品を置くことの禁止などを規定した<sup>31</sup>。この王令はまた、街路の舗装をそこに面した家の家主の責任とする一方、市内と郊外の地区長・十人長・五十人長とブルジョワおよび商人が不正を司法に訴え、パリのプレヴォまたはその刑事代理官が処罰を引き受けるよう命じている。さらに1541年のパリ高等法院判決は、「現在のポリスに関する無秩序」を具体的に「不正・犯罪・暴動・瀆聖・盗み・略奪・殺人その他限らない悪事」と列挙し、その責を「まずポリスを監督し知っているべき役人の一部の力不足と怠慢のため」としている。つまりポリスは担当役人が監督すべき事柄で、しかも「ポリスに関する王と高等法院の幾つかの命令・判決を探し出して見る」ことができる程度に範囲を限定された<sup>32</sup>。担当の役人としてはパリ市内16区と郊外に配置されたシャトレ裁判所の委任官32人が、プレヴォと刑事代理官の指揮下で、殺人などの流血事件についての情報掌握、瀆聖や武器携行・賭博の禁止、十人長らによる住民調査と浮浪者の追放、街路清掃とゴミ処理などに当たるよう命じられる<sup>33</sup>。続く各条項で、具体的にシャトレの委任官は殺人や暴力行為などの流血事件をプレヴォに報告すべきとされ、プレヴォまたはその代理官は瀆聖禁止令を読み上げて瀆聖者を処罰すべきとされる。また市内と郊外において武器携行を許可されていない者への武器携行禁止、手工業者と奉公人などの夜間外出を禁止し、警吏と夜警が違反者を取り締まること、浮浪者対策として地区長らが住民調査をおこなって地区ごとにシャトレの委任官に名簿を提出すること、犯罪についての情報把握のため、外科医や床屋などに怪我をした患者の名を書き留めさせ、刑事代理官が担当地区の委任官に提出させること、カードやサイコロ賭博の禁止、街路清掃とゴミ処理についての王令の確認などが盛り込まれた<sup>34</sup>。

1547年には救貧対策を命じる王令が出された。それ以前から教区ごとに名簿を作って救貧会計官による施物の

分配がおこなわれていたが、浮浪者が増えて混乱し、またペストなどの危険が増したので、「貧民の対策とポリスを担う国王役人」から対策の提案がなされたためとされる<sup>35</sup>。その対策は、働ける貧民にはプレヴォが仕事を与え、働けなくて家もない貧民は施療院に収容し、働けないがパリ市内または郊外に家のある貧民は教区ごとに名簿を作って施しの対象とする一方、みだりに施しを求めるとを禁止し、違反者を追放または漕役刑にするといったものである。また1567年2月4日の国王顧問会での決定では宿屋や居酒屋に「大道芸人や役者その他の悪事の機会を招きそうな性質の人々」を宿泊させることが禁止された<sup>36</sup>。1577年の宿屋と居酒屋の営業規制に関する王令でも、店主は店内で若者にサイコロやカードの賭博をさせない、役人は宿屋での不法な集会や瀆聖行為を放置しない、店主は宿泊者の名と居住地を把握し、さらに武器や馬の状況を書いて都市防衛の責任者に知らせるほか、盗賊や犯罪者を宿泊させないように用心し、そうした人物に気づいたら通報するなどの規定がなされた<sup>37</sup>。

公定価格など商工業の秩序に関して、1551年7月14日にパリ高等法院がシャトレ裁判所の検査官の職務を確認した判決は、「ポリスに関する現在の混乱、およびパン屋・宿屋・秣商人・左官・肉屋・荷車引きと、許可なくナイフや剣その他の武器を持っている浮浪者によって日々なされている、悪弊・不正・犯罪・盗み・略奪・殺人・瀆聖その他限らない悪事」を問題としている<sup>38</sup>。対策の手順も詳細になり、シャトレの検査官16人はそれぞれの担当地区で、下役の警吏から毎日報告を受けて、それを上役であるシャトレの委任官に知らせ、また警吏あるいは検査官自らが、街路を歩いたりパン屋や宿屋などに立ち入り検査をおこなって情報を集めるべきとしている。また先に挙げた1567年2月4日の国王顧問会の決定は、「食料・商品・手工業品・仕事その他同類のことといった、ポリスのことに属するすべての事柄について10年来しかも日々増している無秩序と無規則」を問題とし<sup>39</sup>、穀物・パンなどの食品から荷車引き・宿屋、鉄・皮革・布類などの手工業製品、建築業者の監督について、国王役人の権限および役人が遵守すべき規定をまとめたものになっている。例えば穀物取引において、「ポリス役人」は穀物倉庫を開設できるとされ、穀物の売買や輸送を行いたい商人は、「その土地の国王役人」の許可が必要だが、国王役人は許可を与える際にその商人に王令を遵守する誓いを立てさせて記録をつけるといった規定である<sup>40</sup>。このように様々な業種の監督方法が書かれたあとに、同業組合幹事の一般的な役割が規定され、街路の清掃と舗装についての規定が続く。最後の部分で、王国内の国王役人と都市当局または領主が、「官職または領主権のために、あるいは特に任命されてポリスのことを指導すべき」として、この内容を遵守させるように命じられる<sup>41</sup>。パリではシャトレの委任官がそれぞれの地区を担当すべきであり、商人プレヴォと助役もまた警吏か長弓隊員を連れて担当の場所に立ち入る一方、同業組合に対しては幹事を呼んで不正を正させ、また市場や公共の場所にポリスに関する主要な条項を、度量衡の規定とともに書かせるといった方法も定めている。ここでパリのポリスを担う人物として、シャトレの役人のほかにパリ市当局を代表する商人プレヴォと助役が加えられた<sup>42</sup>。

1563年10月22日付の王令でも、「パリがより良くポリスされ、その結果、食料と商品がより良く供給されるように」との目的をうたって、パリの商人プレヴォと助役、およびその代理官に、セヌ川の水運と商業に関すること、および関税と間接税についての裁判の方法を定めた<sup>43</sup>。

さらに1572年1月にアンボワーズで出された王令は、「ポリスのことについての良き王令が無用で執行されないままであるのは、特にその責務を負う人物が、それらを遵守させ維持することをなおざりにしているという過失のためである」として、これらの王令を遵守させる体制を強化するものであった。新しい体制では、パリ高等法院の代表と商人プレヴォ、ブルジョワの代表、シャトレの検察官と市庁舎の検察官などで構成される担当者が週2回集会を開く。この集会は、食料その他の必需品や衣類および日雇い賃金などの公定価格を定め、それが守られているかどうかをシャトレの委任官およびその他のポリス役人に報告させ、軽微な違反であれば上訴なしに処罰できるとされる<sup>44</sup>。またパリだけではなく、王国内の高等法院所在都市で同様の体制がとられ、その他の国王裁判所の所在地でも「ポリスのことと規制のため」の担当者が選ばれ、集会が開かれるよう命じられた<sup>45</sup>。この王令は、同年7月の補足的な王令で「王国のポリスの規則のための良き秩序を定めた」ものとされた<sup>46</sup>。補足されたのは、高等法院の所在地以外の都市では1月の王令によって定められた集会在、通常の裁判がおこなわれる場所で開かれ、そこに従来ポリスを担ってきた王の裁判官が参加でき、しかもポリスの実務は弁護士も代訴人もなしに略式に即決でおこなわれるといった規定である<sup>47</sup>。

1577年11月に改めて国王顧問会の決定として「王国の一般的ポリス」に関する王令が出された。その中で国王は「週に1回の集会和、その期間特にポリスに携わる役人を設定して、ポリスに関したり属したりする事柄について、すべての役人その他の人々からなされる日々の報告を放置せず、その集会で裁判官によって直ちに最初の審問がなされる」よう、また「ポリス役人の意見が分かるときは、月に1回ポリス役人と地区または教区ごとに選ばれたブルジョワが集会を開いて、双方の報告と協議を聞き、ポリスを同じ措置と方法で一致させ」、「その日には同業組合幹事と手工業者・商人・ブルジョワが出席して、悪弊や行き過ぎを正し、値上げや変化を避け、物事を同じ状態に保つため、またポリスのことと執行に役立つあらゆる事柄についての助言をし」、さらに「3か月または6か月に1回、司法役人が集会して食料の公定価格を決め、特に宿屋に守らせる」よう命じている<sup>48</sup>。

これらの規定によって、国王役人または王に権限を認められた人々の職務として、ポリス（警察による取り締まり、または治安行政）の領域が立ち上がってくる。だが王国統治のなかで、ポリスに関する命令とポリスに携わる役人による秩序維持は、実際には進まない。一つには16世紀においてポリスの内容が具体化したとは言え、犯罪防止、街路整備から商工業の秩序維持までをゆるく含んでいて、王令によって主目的が異なるからである。もう一つには王令が出されても文言通りに実行されないからである。地方都市の例をあげれば、ルーアンでは1572年のアンボワーズ王令が高等法院で登録された後、同年3月4日と18日に

都市参事会で「ポリスに立ち会うべき都市参事会員1人と、市内4地区から1人ずつの商業に携わっていないブルジョワ名士」を選ぶなど、王令に沿った対応をした<sup>49</sup>。しかしその後の集会の状況については記録がなく、その一方で浮浪者対策や同業組合などへの規制は、王令がなくても都市参事会和高等法院の判断で行われている。ポリスの実務に関する記録の少なさは、ポリスの実効性の解明を困難にしているが、記録の作成と保存に注意が払われなかった証左でもあろう。

## おわりに

王令集で「ポリス」の語が用いられている15世紀末頃の王令と、フォンタノンが「フランスのポリス」に関する法令として収集している16世紀の法令を見くらべて、明らかに指摘できる変化はポリスの内容の具体化である。フォンタノン法令集の「第1巻第5部」では都市特権に関するものとして、市長の権限や都市当局の体制を定めるものが除かれ、同業組合同約と大市を設定する王令、および街路整備、価格規制、犯罪抑止などの具体的な秩序維持に関するものだけが収録された。16世紀半ば以降の王令などに見られる「ポリスの事柄」「ポリスについての王令」「ポリス役人」といった言い回しは、このような内容の具体化を前提としたものであろう。

秩序維持の実務における変化としては、名簿などの書かれた記録の重視と、指揮命令系統ないし情報収集体制の明文化があげられる。15世紀末には、サントの市長と助役などが「市内および郊外のすべての住民に通じている」べきだとされ<sup>50</sup>、ブルジュの市長と助役は「夜警や市門の物見などをすべき人々にさせる」よう求められている<sup>51</sup>。これらの王令では書き残すことについての言及はない。しかしパリでは1495年の夜警に関する王令で、夜警の担当者について記録する書記の存在が読み取れる<sup>52</sup>。さらに1541年のパリ高等法院判決で、住民調査とシャトレの委任官への名簿提出が求められ<sup>53</sup>、その後も市内各地区とシャトレ裁判所との情報伝達の強化が命じられた。近世にポリスが王国の秩序形成の基盤に位置づけられるのは、このような内容の具体化と情報掌握の体系化が見込まれたからではないだろうか。

## 註

<sup>1</sup> Albert RIGAUDIERE, «Les ordonnances de police en France à la fin du Moyen Age», in: Michael STOLLEIS (hg.), *Policey im Europa der Frühen Neuzeit*, Frankfurt am Main, Vittorio Klostermann, 1996, pp. 97-161.

<sup>2</sup> A. RIGAUDIERE, op. cit., p. 100. 本論で王令などを翻訳する場合に、なるべく同じ原語には同じ訳語、例えば *ordre* には「秩序」、*reglement* には「規則」、*justice* には「司法」をあてる。*police* は「ポリス」とする。ポリスと比べると「共通善 *bien commun*」・「公共の事柄 *chose publique*」に類する語句は頻繁に使われている。「共通善」についての比較的新しい論考としては Elodie LECUPPRE-DESJARDIN et al. (ed.), *De Bono Communi. The Discourse and Practice of the Common Good in the European City (13th-16th c.)*, Turnhout, Brepols, 2010 に所収されている諸論文。

<sup>3</sup> Antoine FONTANON, *Les Edicts et ordonnances des roys de France depuis S. Loys jusques à présent avec les vérifications, modifications et déclarations sur icelles*, Paris chez Nicolas Chesneav, 1580, «Livre cinquiemes et dernier du premier

- to me de la iustice, traitant generalmente & particulièrement de la Police de France, & du reglement des artisans & arts mechaniques», pp. 559-827. 以後 Fontanon と略記する。編者フォンタノンは「パリ高等法院の弁護士」の肩書きを付けられている。
- <sup>4</sup> 王令集は *Ordonnances des rois de France de la troisième race, recueillies par ordre chronologique*, 21 vols., Paris, l'Imprimerie royale/nationale, 1723-1849, 以後 *Ordonnances* と略記する。この一部はフランス国立図書館 Bibliothèque nationale の資料提供サイト Gallica からダウンロードできる。筆者が参照した第19巻と第21巻は Gallica 提供のもの、第20巻はリプリント版 (republished in 1968 by Gregg Press Limited)。
- <sup>5</sup> 拙著『十六世紀ルーアンにおける祝祭と治安行政』(論創社、2011年)では、この点の掘り下げが足りなかった。なおパリ警察代官を始めとする「警察 police」組織が形成されるのは、1660年代を待たなければならぬ。Bernard DURAND, «La Notion de Police en France du XVIe au XVIIIe siècle», in: Michael STOLLEIS (hg.), *Policey in Europa (op. cit.)*, pp. 163-211; 高澤紀恵「パリのポリス改革 1666-1667」, 『思想』959号、2004年3月、62~87頁。
- <sup>6</sup> «Statuts de Chaudronniers de Paris (à Paris, au mois de Septembre, l'an de grace 1484)», *Ordonnances*, tome XIX, pp. 428-435. 引用部分は «afin que d'ores en avant leur dit mestier et marchandise soit mieulx policé», p. 435.
- <sup>7</sup> «Statuts des Merciers et Maîtres de la Confrérie de Saint-Louis à Paris (à Paris, au mois d'Aoust, l'an de grace 1485)», *Ordonnances*, tome XIX, pp. 578-579. 引用部分は «par nostre prevost de Paris comme ayant le gouvernement de toute la police de ladite ville», p. 578.
- <sup>8</sup> «Edit portant injonction, sous peine d'amende, relativement aux halles de Paris (à Saint-Just-lez-Lyon, 3 mai 1497)», *Ordonnances*, tome XX, pp. 583-586. 関連部分は «à ce que la police de nostre ville de Paris, tant pour les vivres que pour les marchandises, soit tousjours de mieulx en mieulx continuée et observée», p. 585.
- <sup>9</sup> «Confirmation des Privilèges des Habitans d'Azas en la sénéchaussée de Toulouse (à Corbeil, au mois d'Avril, l'an de grace 1484)», *Ordonnances*, tome XIX, p. 336. 引用部分は «nous avons confirmé, ratifié et approuvé, confermons, ratifions et approuvons, de grace especiale, plaine puissance et auctorité royale, par ces presentes, tous et chacuns les privileiges, libertez, franchises, us, coustumes et statuz, ordonnances tant en fait de justice que autrement, foires, marchiez et polices».
- <sup>10</sup> «Confirmation des privilèges des habitants de Lavar en la province de Languedoc (à Lyon-sur-le-Rosne, au mois de may, l'an de grace 1496)», *Ordonnances*, tome XX, p. 537. 関連部分は «plusieurs privileiges, franchises, libertez, us, coustumes, statuz, ordonnances, tant en fait de justice civile que criminelle, foires, marchez et polices»
- <sup>11</sup> «Ratification des Coutumes, Libertés, Franchises, & c., dont avoit joui la ville d'Hesdin sous le Gouvernement précédent (au Plessis du Parc, au mois de Janvier, l'an de grace 1483)», *Ordonnances*, tome XIX, pp. 240-252. 引用部分は «tant pour le fait de l'estappe et eschevinnage dudit Hesdin, que plusieurs statuz, ediz et ordonnances pour le bien, prouffit et utilité et entretenement de la pollice de ladite ville», p. 251. なおこの王令に引用されているブルゴーニュ公フィリップの文書の中では、複数箇所にも police の語があり、やはり都市の全般的な秩序維持の意味で用いられていると解釈できる。例えば «nommer, eslire et creer treize personnes, dont l'un d'iceulx est mayeur, pour exercer la justice et gouverner la pollice d'icelle ville», p. 241.
- <sup>12</sup> «Privilèges de la Mairie d'Angers (à Montargis, au mois de Decembre, l'an de grace 1484)», *Ordonnances*, tome XIX, pp. 453-458. 引用部分は «afin que ladite ville feust tousiours mieulx gardée et tenue en bon ordre et police, eust créé, estably et ordonné en icelle ville ung maire et certain nombre d'eschevins avecques autres officiers appartenans à mairie, ausquelz, pour l'entretienement de ladite mairie, regime, police et gouvernement de ladite ville», p. 453.
- <sup>13</sup> «Confirmation des privilèges de la ville de Saintes (à Saint-Germain en Laye, au mois de mai, l'an de grace 1492)», *Ordonnances*, tome XX, pp. 325-332. 関連部分は «ilz peussent par chacun en eslire vng maire avec certains jurez et eschevins en ladite ville de Xainctes et aux faulxbourgs d'icelle qui avoient la charge de la justice et police de ladite ville, et congnoissance sur tous les habitans et demourans en icelle ville et faulxbourgs», p. 326.
- <sup>14</sup> «Lettres qui conferment les privilèges de la ville de Bourges (à Nantes, au mois de janvier, l'an de grace 1498)», *Ordonnances*, tome XXI, pp. 153-157. 関連部分は «Item et lesquelz maires et eschevins ainsi esleuz et instituez après le serement fait ès mains de mondit sieur le bailli ou son lieutenant, auront par prevencion, auctorité, puissance, juridiction et contrainte en ladite ville et faulxbourgs, touchant le fait, estat et police de ladite ville. C'est assavoir touchant la reparation des ponts, portes, chaussées, curement et nectoyement de ladite ville, sur la forme des edifices qui se feront de nouvel en ladite ville par surprinse des rues publiques, faire contraindre à faire puys, scyternes, amas et provisions d'eaues et autres choses pour obvier aux inconveniens de feu ou autres inconveniens qui pourroient survenir en ladite ville, sur les fautes et abuz de mesures et moultures des meusniers, sur le fait du poix du pain des boulangiers, et sur les chairs et poissons des bouchers et poissoniers regatiers et revendeurs de vivres, et sur toutes choses concernans victuailles en ladite ville, sur le boys, charbon, fagots, tumbereaux, tieulle, sable, chaux, lacte, carreau, ou sur toutes autres matieres concernant le fait de la reediffication de ladite ville et police d'icelle, et aussi de contraindre à faire guect, porte eschauguetes et arriereguet tous ceulx qui de droit et ancienne usance y seront tenez, toutesfoiz et quantes que par le Roy nostre souverain seigneur ou ses officiers leur sera ordonné. (par Charles VIII, donné à Paris, au mois d'avril, l'an de grace 1491)», p. 155.
- <sup>15</sup> «Lettres portant nomination du Duc d'Orléans à la Lieutenance du Royaume pour l'Île-de-France, la Champagne, le Beauvoisis, le Vermandois et quelques autres pays (à Amboise, le 9e jour d'Octobre, l'an de grace 1483)», *Ordonnances*, tome XIX, pp. 152-154. 引用部分は «De faire ou donner promptes provisions ès matieres où il sera requis, et icelles faire promptement executer si les cas et matieres requierent celerité, soit en fait de guerre, de justice, de vivres, de police, pour le fait de la marchandise ou autrement», p. 153.
- <sup>16</sup> «Sur les Appellations des Jugemens rendus par les Justices de Flandre (à Clery, le 5e jour de Decembre, l'an de grace 1483)», *Ordonnances*, tome XIX, pp. 215-217. 関連部分は «tant au fait de la police d'icelle que de la justice qui se fait et administre entre les inhabitans et les marchands qui y hantent et conversent, par les gens de loi desdites villes qui ont cognoissance de tous cas civils et criminels de leurs bourgeois et inhabitans, et d'autres dont ils ont accoustumé cognoistre, et que de toute ancienneté ils ayent pretendu et maintenu que, pour le bien et cours de la marchandise, l'estre et entretenement desdites villes et de leur police, ils n'estoient appellables ne refformables en cas civils ne en cas criminels», p. 215.
- <sup>17</sup> «Ordonnance sur le fait de la justice du pays de Languedoc (à Molins, le 28e jour de decembre, l'an de grace 1490)», *Ordonnances*, tome XX, pp. 258-280. 関連部分は «Comme les gens de trois estats de nostre pays de Languedoc nous ayent très-instamment requis qu'en procedant à l'extension de la commission à vous adressée, touchant le fait de la justice et police dudit pays», p. 258; «desirans nostredit pays de Languedoc et nos sujets habitans en iceluy estre traitez, regis et gouvernez en toute bonne justice, police et soulagement», p. 280.
- <sup>18</sup> «Pouvoirs de gouverneur et lieutenant général pour l'Isle de France et la Brie, donnés au comte de Montpensier (à Amboise, le 9e jour de decembre, l'an de grace 1493)», *Ordonnances*, tome XX, pp. 426-428. 関連部分は «luy avons donné et donnons par ces presentes plein pouvoir, autorité

et mandement special de vaquer, entendre et s'employer de par nous et en nostre nom en ladite charge, de faire vivre et entretenir en bon ordre et police tous les sujets desdites villes et pays, tant nos gens de guerre que autres», pp. 426-427.

<sup>19</sup> «Confirmation du Parlement de Paris (à Amboise, le 12e jour de Septembre, l'an de grace 1483)», *Ordonnances*, tome XIX, pp. 125-129. 引用部分は「Comme entre les vertuz cardinalles justice tiengne le premier lieu, par laquelle les Rois regnent en terre, les royaumes, principaultez et monarchies sont entretenus en leurs auctoritez, dignitez et prerogatives et en bonne police et ordre, l'Eglise conservée en sa liberté, et le peuple preservé et defendu de toutes oppressions et violences», p. 125.

<sup>20</sup> «Lettres portant Règlement pour les Gens de guerre (à Compiengne, le 6e jour d'Octobre, l'an de grace 1486)», *Ordonnances*, tome XIX, pp. 672-677. 引用部分は「touchant l'ordre, pollice, gouvernement et maniere de vivre des gens de guerre»; «pour garder et abatre les pilleries que font lesdictes gens de guerre, et afin de les faire vivre en bon ordre et pollice en chevauchant, allant et venant par nostredit royaume», p. 673. なおこれに先立って「Lettres portant Règlement sur la police des Gens de guerre, et principalement sur les pilleries et les vexations dont ils pouvoient se rendre coupables (à Bourges, Octobre 1485)», *Ordonnances*, tome XIX, pp. 601-603 も出されている。

<sup>21</sup> «Confirmation des droits et pouvoirs octroyés aux trésoriers de France (aux Montilz-lez-Tours, le 9e jour d'octobre, l'an de grace 1489)», *Ordonnances*, tome XX, pp. 200-201. 関連部分は「desirans de tout nostre cœur l'accroissement et augmentation d'iceluy nostre domaine, et bon ordre et police y estre mise», p. 201.

<sup>22</sup> «Ordonnance rendue, en conséquence d'une assemblée de notables, sur la justice et la police du royaume (à Blois, au mois de mars, l'an de grace 1498)», *Ordonnances*, tome XXI, pp. 177-207. 引用部分は「nous qui desirons sur toutes les choses mortelles que de nostre temps et regne nosdits royaume et subjectz soient bien regis et gouvernez par bonne et deue justice et police», p. 177.

<sup>23</sup> «Confirmation des offices des généraux des monnaies (à Compiengne, le 8e jour de juing, l'an de grace 1498)», *Ordonnances*, tome XXI, pp. 34-36. 引用部分は「faire et donner bon ordre et pollice ou fait de nosdites monnoyes», pp. 34-35.

<sup>24</sup> «Lettres portant confirmation des officiers de la Chambre des comptes de Paris (à Pontoise, le 24e jour de juin, l'an de grace 1498)», *Ordonnances*, tome XXI, pp. 37-39. 引用部分は「donner, faire, garder et entretenir si bon ordre et police à tous les officiers de nostredit royaume», p. 38.

<sup>25</sup> «Déclaration portant règlement pour la taxe des vivres, denrées et marchandises (à Blois, 11 mars 1498)», *Ordonnances*, tome XXI, pp. 166-172; «Du taux des vivres et hosteleries & cabarets, & du prix des denrees & marchandises, Loys 12», Fontanon, pp. 664-668. 両者はほぼ同文だが、表題のtaxe と taux のように綴りに若干の相違がある。条項立てについても、王令集の第8条と第9条がフォンタノン法令集では第8条にまとめられているため、以下1か条ずつ番号がずれ、王令集では第13条まで、フォンタノンでは第12条までである。また王令集ではこれを「ブロー、1498年3月11日」と特定しているが、いずれも本文中に日付や発布地の記載はない。

<sup>26</sup> «lequel grand desordre et cherté de vivres et denrées est principalement advenu, comme sommes advertis, par la negligence de nos officiers et autres qui ont eu et ont la charge et gouvernement de la justice et police de nos villes et pays, lesquels n'ont eu et n'ont le soin, cure et diligence de pourveoir et mettre taxe et police raisonnable auxdites choses, chacun en son endroit», *Ordonnances*, tome XXI, p. 167.

<sup>27</sup> «Savoir faisons que nous, à qui appartient la cure totale, regime et gouvernement principal de tous nos sujets, aussi la protection, bon traitement en nostre royaume de tous estrangiers, marchans et autres, qui sous la confidence de

nostre justice et bonne police viennent et frequentent en nosdits royaume, pays, et seigneuries, desirans obvier auxdits grands abus et desordre, et mettre bon ordre et police generale par toutes nos seigneuries, provinces et pays sur le fait et taux desdites vivres, denrées et marchandises; pour ces causes, eu sur ce advis et deliberation avec les princes et seigneurs de nostre sang et lignage, et gens de nostre grand conseil, gens de nos parlemens et autres que avons pour ce assemblez; Avons statué et ordonné, et par ces presentes, de nostre certaine science, pleine puissance et autorité royale, statuons et ordonnons, par edit et ordonnance royale et perpetuelle, ce qui s'ensuit», *ibid.*, p. 167.

<sup>28</sup> «Déclaration portant règlement pour la police des examinateurs du Châtelet de Paris (à Bloys, ou mois de may, l'an de grace 1505)», *Ordonnances*, tome XXI, pp. 324-328. 関連部分は「nous avoir receu l'humble supplication de nos chers et bien aimez les seize examinateurs de nostre Chastellet de nostre bonne ville et cité de Paris, contenant que, pour le bien et entretenement de nostre justice ordinaire de nostredite ville de Paris, qui est l'imperaille de nostre royaume, commodité et police de la chose publicque d'icelle ville, et obvier à toutes voyes de fait, excez et monopoles, tenir le peuple, dont il y a grand affluence, en crainte souz l'auctorité de nostre prevost de Paris, expedition des causes et procès pendans en nostredit Chastelet, et pour plusieurs autres bonnes causes furent despieçà iceux supplians creez, ordonnez et establis, par nos predecesseurs Roys de France, et par nous confirmez esdicts offices», pp. 324-325.

<sup>29</sup> «Exemption d'impôts en faveur des seize Quartiniers de la ville de Paris (à Montargis, au mois de Janvier, l'an de grace 1484)», *Ordonnances*, tome XIX, pp. 464-466. 関連部分は「lesdits supplians ont acoustumé commectre ung notable bourgeois et habitant de ladite ville, lesquelz sont en nombre seize et nommez quarteniers, ayans charge expresse, chacun en son quartier, souz lesdits prevost et eschevins, de regarder au fait de ladite ville, oyr toutes nouvelles, faire assembler les nobles, bourgeois, manans et habitans d'icelle ville, chacun en son quartier, toutes et quantes fois que besoing en est et en quelque temps que ce soit, de jour et de nuyt, pour donner ordre et provision aux affaires dessusdites et savoir quel nombre de gens y a en chacun desdits quartiers, tant habitans et residens ordinairement illec que autres extrangiers», pp. 464-465; «nous, ces choses considerées, desirans sur toutes choses notredite ville de Paris, qui a tousiours esté et est le chief et la principale ville de notre royaume, estre entretenue en si bonne police», p. 465.

<sup>30</sup> «Confirmation des Privilèges accordés aux Arbalétriers de Paris (à Baugency, au mois de Novembre, l'an de grace 1483)», *Ordonnances*, tome XIX, pp. 182-183. 引用部分は「voulans et desiderans de tout nostre cueur le bien, honneur et prouffit de nostredite ville de Paris et des frequentans et habitans en icelle, et icelle estre de bien en mieulx ordonné et gardée en police et ordre deffensible», p. 183.

<sup>31</sup> «Ampliation & declaration sur l'ordonnance precedente pour tenir la ville de Paris nette & bien pauee (à la Fere sur Oise, le 28e iour de lanuier, l'an 1539)», Fontanon, pp. 631-632. 引用部分は「nous desirans l'entretenement & conseruation de noz ordonnances faites sur la police de nostre bonne ville & cité de Paris», p. 631. なおゴミ処理に関する1493年3月の王令にはポリスの語がない。「Injonction touchant les maladies contagieuses et les immondices (à Paris, 25 mars 1493)», *Ordonnances*, tome XX, pp. 436-437.

<sup>32</sup> «Reiglement sur le fait de la police, contenant le deuoir des Commissaires du Chastelet de Paris, des Sergens à verge, des quarteniers, dixeniers & cinquanteniers (fait en parlement le 22. iour de Decembre, 1541)», Fontanon, pp. 638-640. 引用部分は「du desordre qui est de present au fait de la police, & des abus, fautes, insolences, rebellions, blasphemes, larrecins, voleries, meurtres, & autres maux infinis, qui de iour à autre se commettent en cestedite ville, fauxbourgs, & es

environs d'icelle par le peu de pouuoir & negligence d'aucuns Officiers, ayans la premiere intendance & cognoissance du fait de la police, & apres auoir par ladite cour, par le commandement expres du Roy, fait recercher & voir plusieurs ordonnances & arrests d'icelle cour concernans ladite police», p. 638.

<sup>33</sup> この王令の第1条には市内と郊外に及び管轄地域の区分ごとに委任官の名が記載されている。続けて「2 A tous lesquels lesdits Commissaires dudit Chastelet, qui ne sont de present residens esdits quartiers à eux cy dessus distribuez enioint ladite cour d'y aller, eux tenir, & resider actuellement dedans le iour de Pasques prochainement venant, pour tous delais. Autrement à faute de ce auoir fait dedans le temps, & iceluy passé, a ladite cour dès à present déclaré & declare leursdits officies vacans & impetrables. 3 Et au surplus leur a ladite cour & à chacun d'eux defendu & defend, de partir de ceste ville, à sçauoir des quartiers esquels y en a quatre, plus de deux fois à la fois: & ceux esquels y en a deux plus d'un à la fois: & es quartiers esquels n'y a qu'un Commissaire, il ne partira de cestedite ville pour aller aux champs sans commettre sa charge au prochain Commissaire de sondit quartier, dont auant leurdit departement seront tenus lesdits Commissaires en aduertir le Lieutenant criminel de la Preuosté de Paris, qui en fera faire registre. Et ce sur peine quant ausdits Commissaires, de suspension de leurs offices à tel temps que sera par ladite cour arbitré.», p. 638.

<sup>34</sup> 15世紀末の瀆聖を禁じた王令「Edit contre les blasphemateurs (à Rouen, le 3e jour de décembre 1487)», *Ordonnances*, tome XX, pp. 46-47 と、パリの夜警制度を定めた王令「Règlement pour le guet de la ville de Paris (à Saint-Martin de Candé, avril 1491; enregistrée le 23 juillet 1495)», *Ordonnances*, tome XX, pp. 314-316 の本文にはポリスの語がない。

<sup>35</sup> «Reiglement sur la nourriture & entretenement des pauvres de la ville & fauxbourgs de Paris, à fin qu'ils n'aillent mandiens par la ville (à saint Germain en Laye le 9e iour de luillet, l'an de grace 1547)», Fontanon, pp. 662-663. 引用部分は「noz Officiers ayans la charge & police desdits pauvres». p. 662. なお1553年の王令で「余の良き都市パリの貧民のポリスについて」という言い回しが使われる。「Permission aux Maistres de mestiers d'auoir deux apprentifs (à Paris le 12e iour de Feurier, l'an de grace 1553)», *ibid.*, pp. 640-641. 引用部分は「sur le fait de la police des pauvres de nostre bonne ville & cité de Paris», p. 640.

<sup>36</sup> « (Arresté au conseil du Roy à Paris le 4e iour de Feurier, l'an 1567)», Fontanon, pp. 559-576. «Seront faites defenses aux hosteliers & cabaretiers de venir ou introduire à leurs hostes, iongleurs, farceurs, & autres qualitez de gens qui apportent occasion de malfaire, sur peine d'amende arbitraire comme dessus.», p. 568.

<sup>37</sup> «Edict du Roy sur le fait des hostelleries, cabarets, & tauernes ordinaires de ce Royaume: & de les tenir par lettres & permission dudit Seigneur: avec les exemptions franchises & reglemens de ceux qui y seront pourueuz (à Bloys au mois de Mars, l'an de grace 1577)», Fontanon, pp. 686-688. 関連部分は「Defendons tresexpressément ausdits hosteliers, cabaretiers, & tauerniers, de tenir ou permettre en leurs maisons parlans de ieuz de detz, cartes, & autres desbauchemens pour la ieunesse, ny enfans mineurs & autres gens desbauchez, mesmes leur faire pour cest effect nul credit sur peine de perdition de leur debte, & sans qu'il leur soit permis ny loysible d'en faire aucune poursuite contre eux. Defendons à tous noz lusticiers & Officiers d'auoir aucun esgard aux promesses, cedules ou obligations qui pourroyent pour telle occasion à l'aduenir estre faites, ains des apresent les auons declarees nulles & de nulle valeur: souffir assemblees illicites contre noz ordonnances, ny aucuns blasphemés & iuremens execrables, contre lesquels actes, venans à leur cognoissance, ils feront deuoir de gens de bien: & où ils continueroyent, donneront ordre que la justice en puisse estre aduertie, pour la punition desdits crimes. Seront tenus lesdits hosteliers, cabaretiers,

& tauerniers establis es villes, chasteaux & places fortes, s'enquerir curieusement des noms & demeurances de tous ceux qui arriueront en leurs logis, de la description de leurs armes & cheuaux, pour à l'instant en aduertir les gouverneurs ou Lieutenans desdites villes, chasteaux & places fortes. Et au regard de ceux des bourgs & bourgades, & plat pays, prendront soygneusement garde, que en leurs logis ne soyent receuz les voleurs ne autres personnes maluians: & où ils s'apperceuroyent qu'ils fussent tels, leur enioignons expressement en aduertir incontinent le Sieur du lieu ou ses Officiers, à fin de pouuoir aux surprinses & voleries qui en pourroyent aduenir.», p. 687. フォンタノンには宿屋・居酒屋規制令として、1498年の公定価格に関する王令(前出註25)を含み、1567年の国王顧問会の決定を除く15件をまとめて扱っている。その多くは価格と食事・サービスの内容の規制で、宿泊者の選別を命じているのはこの1件だけである。*ibid.*, pp. 664-689.

<sup>38</sup> «Des examineurs du Chastelet de Paris, leur jurisdiction & deuoir sur le fait de la police (fait en Parlement le 14e iour de luillet, l'an 1551)», Fontanon, p. 637. 引用部分は「pour raison du desordre qui est de present au fait de la police, & des abus, fautes, larrecins, pilleries, exactions, meurtres, blasphemés & autres maux infinis qui sont commis de iour en iour, tant par les boulangers, hosteliers marchans de foin & feurres, plâtriers, bouchers, charretiers qu'autres gens oisifs & vagabons, portâs poignars, espees & autres bastons, sans aueu», p. 637. シャトレの検査官に関する王令については前出註28. ここでも検査官は16人とされている。

<sup>39</sup> 前出註36. 関連部分は冒頭「Le Roy en son conseil deuement aduertit du desordre & du desreglement adueni depuis dix ans, & augmentant de iour à autre en toutes choses qui dependent du fait de la police: comme viures, marchandises, œures, ourrages, & autres semblables», p. 559.

<sup>40</sup> «Et neantmoins en cas de necessité sera permis aux officiers de la police des lieux faire ouuir les greniers en tout temps quand seboing sera.», p. 559; «5 Que ceux qui voudront faire traffique ou marchandise pour les pouuoir acheter, vendre & reuendre en ce Royaume, seront tenus de demander permission de ce faire au Officiers dudit Seigneur sur les lieux, lesquels octroyeront icelle permission gratuitement & sans rien prendre, à personnes bien famees & renommees, & receuant de ceux qui la demanderont le serment de bien & fidelement soy y conduire & garder les ordonnances, & à la charge de faire par eux enregistrer aux greffes leurs noms, surnoms & demeurances, ensemble leurditte permission.», p. 560.

<sup>41</sup> «Ledit Seigneur veut & ordonne, que les Officiers du Roy, & des corps communautez & Seigneurs de ce royaume, ausquels compete & appartient la direction du fait de la police, soit à cause de leurs offices ou seigneurie, soit par attribution speciale, ayent à vacquer diligemment & soigneusement toutes autre choses laissez à l'obseruance, entretenement & execution du contenu cy dessus, sur peine de priuation de leurs offices, s'ils sont Officiers dudit Seigneur: & quant aux Seigneurs & communautez, sur peine de priuation de leurs droits de iustice et police.», p. 575.

<sup>42</sup> «6 Que le semblable sera fait par les Preuosts des marchans, & Escheuins de la ville, pour les lieux & endroits esquels ils ont attribution ou iouyssance de police: ausquels est enioint aux mesmes fins que dessus, despartir l'un d'eux par sepmaine, avec leur Sergens & archers, pour le fait & execution de ladite police.», p. 576.

<sup>43</sup> «Il est enioinct aux Preuost des Marchans & Escheuins de la ville de Paris, de cognoistre & decider sommairement & sur le champ de toutes les causes & defferens dont la cognoissance leur appartient, sans appointer aucunement les parties à produire ou mettre deuers eux (à Paris le 22e iour d'Octobre, l'an de grace 1563)», Fontanon, pp. 594-595. 引用部分は「Pourquoy nous desirans l'aduanacement de iustice, par le moyen de laquelle nostredite ville sera mieux policee, & consequemment mieux fournie & pourueue de viures &

marchandise», p. 594.

<sup>44</sup> «Ordonnance du Roy sur le fait & reiglement de la police, pour estre tenue les iours de mardy & vendredy, par les Officiers & personnes deputez de sa Maiesté, tant en ceste ville de Paris, en la salle de la chancellerie, qu'és autres villes & lieux de ce Royaume: ensemble sur le transport des marchandises de ce pays, & apport ou entree des estrangers en iceluy (à Amboise au mois de lanuier, l'an de grace 1572)», Fontanon, pp. 651-653. 関連部分は「5 Et d'autant que par experience nous auons cognu, que noz predecesseurs & nous, ayans cy deuant fait de tresbelles ordonnances sur le fait de la police, elles sont neantmoins demeurees inutiles & sans execution, par faute de personnes qui specialement ayent eu ceste charge de vacquer à icelles faire obseruer & entretenir: & pour les continuelles & diuerses plaintes que nous auons de tous endroicts de nostre Royaume de l'excessiuité du prix de toutes sortes de viures, & autres denrees necessaires pour la vie & vsage des hommes, auons à ceste cause aduisé, qu'en certaines villes de nostre Royaume y aura d'oresnauant certains bons & notables personnages qui seront commis & deputez specialement pour cest effect. 6 Et premierement, pour le regard de nostre bonne ville de Paris, auons ordonné & ordonnons qu'un des Presidens, & un Conseiller de nostre cour de Parlement, un Maistre des requestes, le Lieutenant ciuil ou criminel, & en leur absence le particulier, le Preuost des Marchans ou l'un des Escheuins, quatre notables bourgeois de ladite ville non exerceans fait de marchandise, noz Procureurs au Chastelet, & en l'hostel de la ville, s'assembleront au Palais, en la salle de la chancellerie, deux fois la semaine, le mardi & vendredi, depuis une heure apres midi iusques à 5. sans que durant ledit temps ils puissent vaquer à autre affaire. Et à laquelle assemblee pourront interuenir noz Aduocats & Procureurs general en nostredite cour, quand bon leur semblera, & qu'ils verront que la necessité des affaires le requerra. Et ce en la mesme qualité & pouuoir que lesdits Commissaires & deputez, & non pour y requerir ne faire office de noz Aduocats & Procureurs: ausquels deputez auons donné & donnons, priuatiuement à tous noz autres Officiers, puissance & autorité de mettre taux aux viures, comme chairs, poissons, bleds, vins, huyles, chandelles, & autres menues denrees, & aussi les foins, pailles, bois & cuirs: pareillement mettre prix sur toutes sortes de façons d'habillemens: & aux estoffes applicables, sur iceux, comme aussi ils taxeront autant qu'ils verront estre les iournees des manouuiers & autres artisans, receuront & iugeront: les rapports par les Commissaires du Chastelet & autres Officiers de la police. Ausquels pour cest effect enioignons de se trouuer par deuant lesdits deputez aux iours susdits: voulons & nous plaist, que lesdits deputez facent soigneusement entretenir & garder les ordonnances tant de nous que de nos predecesseurs: & celles qui pourront estre faites cy apres sur le fait de la police, & que les iugemens & sentences qui seront donnez par eux contre les delinquans soyent executees nonobstant l'appel, & sans preiudice d'iceluy, iusques à quarante liures parisis, & diffinitiuement, & sans appel, iusqu'à cent sols parisis & au dessus. Et où il escherroit, outre lesdites amendes, peine & punition corporelle, les delinquans seront renuoyez par deuant les iuges ordinaires, ausquels la cognoissance desdits delicts en appartiendra.», pp. 652-653.

<sup>45</sup> «8 Et pour le regard des villes de nostre Royaume où il y a Parlement, voulons que le mesme & susdit ordre soit suyui & gardé au plus pres qu'il sera possible. 9 Et quant

aux autre villes où il y a siege Royal, nous auons ordonné qu'il sera commis six personnages notables, dont les deux seront Officiers, & les quatre bourgeois, lesquels seront choisis aux assemblees des villes de six mois en six mois pour s'assembler aux iours susdits & vaquer actuellement au fait & reiglement de la police, comme dessus est declaré pour la ville de Paris. Lequel reiglement aura lieu & sera gardé par tout le ressort dudit siege. Voulons & entendons que ce que par lesdits deputez sera condamné & iugé, soit executé nonobstant l'appel, & sans preiudice d'iceluy, iusqu'à la somme de vingt liures parisis, & diffinitiuement sans appel iusqu'à quarante sols parisis.», p. 653.

<sup>46</sup> «Ampliation faite par le Roy de son ordonnance sur le fait de la police: avec reiglement d'entre les iuges ordinaires des lieux, & les iuges politiques: & de l'execution & exercice d'icelle (à Paris le 28e iour de juillet, l'an de grace 1562)», Fontanon, p. 577. 引用部分は「Nous auons par edict du mois de lanuier dernier passé estably un bon certain ordre pour le reiglement de la police de nostre royaume.»,

<sup>47</sup> «Et voulons en outre que ladite administration de police soit faite & exercee sans ministere d'Aduocat ne de Procureur, mais sommairement, & iugee sur le champ».

<sup>48</sup> «Ordonnance du Roy sur le fait de la police generale de son royaume, contenant les articles & reiglemens que sa Maiesté veut estre inuiolablement gardez, suyuis & obseruez, tant en la ville de Paris, qu'en toutes les autres de sondit royaume (Arresté au conseil priuè du Roy tenu à Paris le 21e iour de Novembre 1577)», Fontanon, pp. 577-593. 引用部分は「Nonobstant l'establissement special d'un iour en la semaine, & departement particulier d'aucuns Officiers durant icelle, pour seruir à la police, ne laisseront neantmoins estre faits chacun iour rapports, par tous Officiers & personnes qui se presenteront, de ce qui touchera & appartiendra à la police: à quoy seront donnees par les iuges les premieres & plus promptes audiences. Es lieux où y aura diuersité d'Officiers de police, sera estably certain lieu, & ordonné certain iour le mois, pour s'assembler avec les bourgeois esleuz par les quartiers ou parroisses, & illec rapporter ou conferer ce qui aura esté fait d'une part & d'autre, & le conformer ensemblement à mesme train & façon de police, sans entrer en aucune diuersité ou contrariété. A ce iour seront par eux appelez les maistres iurez & gardes des mestiers, ouuriers, artisans, marchans bourgeois, & autres qu'il appartiendra, pour aduiser les moyens de corriger les abus & excez, tenir les choses en mesme point & estat, sans souffrir aucune hausse ou inuouation: & generalement pouruoir à toutes choses qui s'offriront pour le fait & execution de la police. De trois mois en trois mois, ou de six mois en six mois, lesdits Officiers de la iustice s'assembleront pour donner taux aux viures & denrees, & pouruoir aux hostellers selon que particulierement a esté cy dessus ordonné.», p. 593.

<sup>49</sup> Archives Communales de Rouen, série A: Registres du Conseil de la ville de Rouen, tome 19 (ACR A19), fo 224 ro, 4 mars 1572; fos 224 vo-225 ro, 18 mars 1572. 引用部分は「on eust a elyre vng des escheuyns de lad' ville et 4 notables bourg' vng de ch'un quartier non exerçant le fait de la marchandise pour assister a lad' pollice», fo 224 ro. ルーアンの都市当局は、バイイと都市参事会員 conseiller/échevin 6人の体制である。

<sup>50</sup> 前出註13.

<sup>51</sup> 前出註14.

<sup>52</sup> 前出註34.

<sup>53</sup> 前出註32.